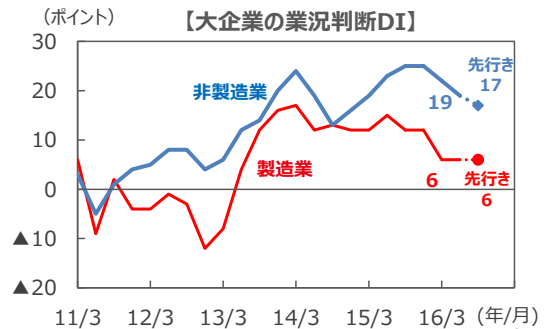


今日のトピック 日銀短観と市場動向

大企業製造業の景況感は横ばい、追加政策に期待

ポイント1 景況感は横ばい 非製造業は悪化

■ 7月1日発表の6月の「日銀短観」によると、大企業・製造業の「業況判断DI」は+6と前回比横ばい、同非製造業が+19と、同▲3となりました。同製造業は市場予想(+4、ブルームバーグ集計)を上回る結果でした。3カ月後の先行きについては、同製造業が+6と横ばい、同非製造業は+17と悪化の見通しです。なお、今回の調査では、英国が欧州連合(EU)離脱を決めた後の金融市場の影響はほとんど織り込まれていないと見られます。



(注)データは2011年3月～2016年9月(四半期)。2016年6月までは業況判断DI(最近)、2016年9月は6月時点の先行きDI。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 想定為替レートは111円 設備投資計画はやや慎重

■ 大企業・製造業の想定為替レートは111円台と、足元の水準との差が浮き彫りになりました。今後想定為替レートが下方修正される可能性があり、収益への影響が懸念されます。
■ 設備投資計画は、大企業・全産業ベースで6.2%となりました。今回の計画は、昨年と同時期の計画を下回りました。

【大企業・全産業の売上高、経常利益、設備投資額】

(前年度比、前年同期比%)	2016年度		
	計画	上期	下期
売上高	▲0.7	▲2.5	1.1
経常利益	▲7.3	▲15.6	3.4
設備投資額	6.2	13.6	0.6

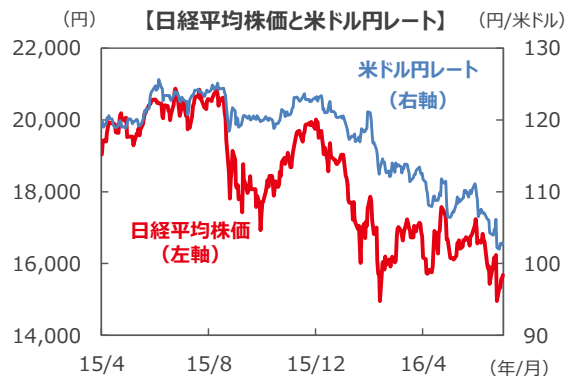
【大企業・製造業の想定為替レート】

(円/米ドル)	2016年度		
		上期	下期
米ドル円レート	111.41	111.46	111.36

(出所)「日銀短観」を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 追加緩和・補正予算に期待

■ 日銀短観の内容は概ね市場の予想の範囲内であったため、発表後の市場の動きは小動きとなっています。ドル円相場が102.92円と前日比やや円安、日経平均株価が15,679円と同小幅高で推移しています(12時時点)。英国のEU離脱ショックを受けて、財務省、日銀が緊急会合を開き、投機的な円高に断固たる措置を取る姿勢を示した後、円高に歯止めがかかり、株式市場は落ち着きを取り戻しています。日銀の追加金融緩和や補正予算の規模拡大などの期待感が今後も株式市場を支えそうです。



(注)データは2015年4月1日～2016年7月1日。7月1日は午前中。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年6月30日 日本の株式市場 日本株式市場を巡る環境を整理
2016年6月28日 日本株式市場の現状と今後の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。